

高野を詠んだ詩歌 — 藤原知家の和歌 —

高野山大学教授・図書館長 下西 忠

建保四年(一一二六)八月、順徳天皇(承久の乱に敗れ佐渡に配流、その地で崩御)の内裏で催された当座うたあわせ歌合があった。歌合とは、人々を左右に分け和歌一首ずつ組み合わせその優劣を競う文学的遊戯である。ただ遊戯というよりも実際は歌人としてのプライドがかかっている。ある説話によれば、歌合で負けた者が悔しさのあまり、食も喉にはいらずまもなく命をおとした話がつたわっているほどである。通常判者がいて判定することになるが、この歌合は衆議判(優劣の決定を参加歌人の多数でおこなうもので、きまらないときには判者が裁定する)であったらしい。藤原知家(一一二五八年没、七十七歳)が、

昔思ふたかの、山の深き夜に暁とほくすめる月かけ

を詠んだ。歌人でもあった順徳天皇は、この歌を大いに賞賛した。知家は天皇からご褒美の厚紙までもらったが、畏れ多く私用できないと判断し住吉神社に御弊として奉納しようと考え退出したという。これは鎌倉時代の『古今著聞集』という説話集に載っている。

ところで天皇はなぜ賞賛したか。もちろん和歌のすばらしきにあることはいまでもない。歌中の「昔思ふ」の対象は、弘法大師の事蹟。ここでは特に大師入定の昔を想起している。「ふかき夜」は、なかなか難しい表現だが、煩惱の深さを暗示していると考え、「暁」

も弥勒菩薩出世の暁を暗示すると考えるのが妥当であろう。釈迦入滅後五十六億七千万年後に弥勒菩薩が出現し、龍華樹下で三度法会を開き、一切衆生を済度なさる時、大師もともにこの世に現れるというのである。大師の入定と弥勒菩薩の下生とが結びつけられているのである。知家はもちろん順徳天皇までもが、大師の弥勒信仰の知識を知っていたということになる。ちなみに有名な『百人一首』の最後、つまり百首目は順徳天皇の歌である。本当はそこには複雑な政治的な問題がからんでいるが、興味ある人は『百人一首』の成立を調べてみれば、古代の文学と政治との深い関わりが見えてくる。

知家は、歌題「古寺の月の心」を高野の美しく澄んだ月に設定し、月のはるか向こうに大師の姿をながめて詠んだのであろう。知家のお手柄というべきであろう。

図書館イベント案内

2013年 10月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2013年 11月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

	9:00-21:30		13:00-21:30
	9:00-17:00		休館日

この秋は、図書館だけではなく、大学でも様々なイベントが開催されて、すごく楽しみです。皆さんはどんなイベントに参加しますか？ [吉]

第3回戸田文化講座 「天野丹生都比売神社本殿 平成のご造替について」

日時:10月 10日(木)17:00~18:00
場所:高野山大学本館 3階 308号室
講師:結城啓司先生
(和歌山県文化財センター技師)



お箏コンサート

日時:11月 6日(水)
場所:高野山大学図書館 閲覧室
演奏者:糀谷有紗先生



第4回戸田文化講座 「読書の町、高野町をめざして」

日時:11月 19日(火曜日)17時~18時30分
場所:高野山大学本館 3階 308号教室
講師:中島紀生(高野町副町長・和歌山県公共図書館協会理事)
橋本奈理加(高野町中央公民館図書室司書)



図書館で開催されるイベントがたくさんあります。事前申し込みは必要ありませんので、ぜひご参加ください。